

心豊かに生き生きと活動する子をめざして ～心の居場所を基盤とした確かな学力の育成～

能登町立松波小学校

1 事例の概要

本校は、心豊かに生き生きと活動する子をめざして、「心の居場所を基盤とした確かな学力の育成」に取り組んだ。県基礎学力調査の結果では、4教科とも概ね県平均レベルであるが、応用的な問題に不十分な点が多い。確かな学力をさらに高めるために、「わかる楽しい授業づくり」「進んでできる自分づくり」「高め合う仲間づくり」の3つの仮説をたてて実践した。その結果、課題解決的学習を中心にした取り組みでは、児童は安心感・満足感をもち、自分の考えを図や言葉などで表現できるようになってきたが、考える手がかりや表現の手段や方法について課題が残る。

A-1 リーフレット

2 実践内容

(1) 「わかる楽しい授業づくり」の取り組み

① 課題解決的学習の充実

児童の意欲が継続するように1時限の学習だけでなく、単元計画でも大きい全体の課題を設けている。どちらも「つかむ→考える→深める→まとめる」の4段階構成で実践してきた。

② 教えて考えさせる授業の取り組み

これは、市川伸一氏が提案する学習過程で、「教師からの説明→理解確認→補充・発展課題→自己評価活動」の4段階構成の授業である。このほかに課題解決的学習をベースに、一部、教えて考えさせる授業を取り入れた折衷スタイルの実践も試みた。

③ 少人数授業とTTの活用

4・5・6年生の算数科では、習熟度別少人数指導を中心にしながら、課題別による少人数指導も適宜取り入れ、主体的な活動や意欲を育む単元計画を見通した課題づくりを行ってきた。

また、1・2年生の算数科では、TTを取り入れた授業を行っている。

④ 考え、表現する力を高める指導法の工夫・改善

県基礎学力調査の結果から、4教科とも応用問題を解く力が弱かったので、考える力や表現する力をつけるために教科ごとに工夫・改善を図った。

⑤ 指導と評価の一体化

県基礎学力調査を児童個々の再学習へ活用したり、通過率の低い問題や単元を取り上げた授業研究を行ったりして指導に生かしている。

(2) 「進んでできる自分づくり」の取り組み

① 学習の基礎づくり

朝自習タイムで漢字・計算・読書を取り入れている。また、百マス計算強化週間を学期に1回設けたり、チャレンジ漢字・チャレンジ計算テスト（9月・1月）を実施したりして、計算力の向上を図っている。

② 家庭学習の充実

宿題の出し方のアンケートを取り、内容や量、時間などについて見直し、意欲を高めるような家庭学習の出し方の工夫を考えた。

(3) 「高め合う仲間づくり」の取り組み

① 学習規律の定着と基本的な生活習慣の確立

互いに認め合えるためには、学習や生活のルールをきちんと守ることが大切である。

② カウンセリングマインドを生かした支援

授業の指導計画の中に、カウンセリングマインドを生かした支援を組み入れ、児童を意欲づけたり、児童に安心感や満足感を与えたりしている。

B—1 授業改善票

3 指導の実際 1年国語科 単元名 「いろいろなくちばし」

(1) 指導のねらい

写真を手がかりに、はちどりのくちばしの特徴と働きを読み取る。

(2) 4段階の指導過程を明確にする

- ① つかむ……課題「はちどりのくちばしは、どんな形かな。くちばしでどうやってすうのかな。」
- ② 考える……説明している文から「細い」「長い」「花の中に」「小さな鳥」「みつ」のキーワードに着目して、くちばしの形と使い方を考える。ワークシートに書く。
- ③ 深める……読み取ったことを話し合う。
自分と似た意見や別の意見を聞くことで考えを深める。
- ④ まとめる……はちどりのくちばしの形とみつの吸い方をまとめる。(動作化)
ふり返りをする。

C—1 指導案

C—2 授業実践記録

4 成果と課題

(1) 成果

- ・課題解決的学習の充実を図る取り組みでは、児童が授業のパターンに慣れることで、児童に安心感・満足感などをうみだすことができた。
- ・教えて考えさせる授業に取り組んでみて、教師からの説明を聞いてからスタートし、全員で理解の確認をしてから進むので、児童の思考がすっきりして、内容の理解につながられた。
- ・課題解決的学習との折衷スタイルの授業では、課題に対して自分の考えが持てるようなわかる楽しい授業に近づいた。
- ・少人数授業やTTを取り入れた指導で、単元末到達度90%の目標を概ね達成できた。
- ・考え、表現する力をつけさせるために、教師がどこで、何を活用し、どんな力をつけさせるかを意識できたことで、子どもたちは、自分の考えを図や言葉や絵で表現することが少しずつできるようになってきた。
- ・指導と評価の一体化では、県基礎学力調査の結果を指導に生かし、通過率の低い単元を丁寧に指導したことで、単元のまとめのテストでは、概ね平均90点をとることができた。
- ・学習の基礎づくりでは、チャレンジ漢字テストやチャレンジ計算テストでは、90点以上の児童が95%以上となった。また、読書量も1.5倍に増えたり、家庭学習の見直しにより、社会や理科の内容も取り入れる児童も増えたりするなど、学習意欲も高まってきた。
- ・カウンセリングマインドの支援を授業に取り入れることで、自由に発言できる雰囲気が出た。

(2) 課題

- ・学習課題に対してどの子も自分の考えをもつことができるような学習活動の組み立て「課題のつかみ」「考える手がかり」を示すことが大事である。
- ・自分の考えを表現することは、個人差があるので、もっと表現する手段や方法について種類をふやしていく指導が必要である。
- ・家庭学習の内容を、子どもの興味・関心を高めるものや、自主的に継続できるようなものなどを含めて考えていく必要がある。